◎白隠禅師（1685 - 1769）の言葉　　　2018年12月　　　天正寺　佐々木奘堂

○「　」（1748年）

１．じてののにてしくれば、のにえられ、のにてられ、し、み、して、のをするもきにり。（189頁）　　肺金：肺のこと。

２．**にをして、のにしめ、の、のにてももせざる**は、にのにして、たる、だちせざるのし。（190頁）　　揖譲：客の応接。

３．しいてくのくなるは、しててかず、しててまず、しててせず、ててせず、いにをずとえども、にのなく、ににして、になり。… しれしてくのくならば、れのかぜざる、… れのかざらん。（192頁）

４．もかりし、**しくのをなりとい、をい、をんで、にのをねてす**。のにもがり、し、にはにるず。く、えににして、にをじ、えずをぶ。**にのく、のえは、らざりき**。（194頁）

５．のをわずらず、にしもてくのにり。にのはいのくにわれ、のはにかぬにえらるるにれど、のはずにはるをず。（197頁）

６．ものはにることすとしかれり。… くえばとて、**をてって、にをめえとうにはず**。**のをえずらぬ、なるをとす**。（198頁）

７．にえのなりとてろしむれども、のものも、ののぶべきにしらず。**のしく、のをのみみて**、てのをらず、のなきに、はのにし、はのなりとしいき。（202頁）

疥癩野干：うす汚い狐。極めて嫌うべきもの。疥癩は皮膚病。『魔訶止観』（二、四）に

　　　　　「大論云、寧起悪癩野干心、不生声聞辟支仏意」とある。

８．のわく、「にかんとせば、をむことなかれ」と。をめとにはず。のにれども、しものわざるく、のにてらずてずして、なくせよとのにてり。…

　は「にてをずの、にをずにせず」とのいき。にせよとのにはらず。のにても、のにされざるく、にせよとのにてり。（203頁）

９．、ちなるに、、**になるべし**。ししてらば、のにってをずるとのをてん。（206頁）　　　　霄壌の間：天地の差。

１０．だすがえすも、のにすべからざるなり。のとは、がのび、にれの、のかる。がのび、にれの、のれのにかる … と、、、たるのいちたるを、げずやくべき、てずやるべきと、**の**をって、もくみわば、… は、めざるにせん。（209頁）　咳唾掉臂、寤時寐時：何をする時（せき・唾をはく・腕をふるう等）でも、寝ても覚めても。

１１．ののにて、**をしてなりとい**、しててれりとするののは、…びきをのにるがく、のをるにて、… しくをしして、にのをることわず、にむべし。（215頁）

１２．だすがえすものをてかず、これあるべし。のは、のにして、のにえり。のめ、にって、、のにって、『』のにしくしえり。…

　をうの、はにならんをし、はにならんをす。らくるべし、をしてにしむるは、れをうなるを。… のゆるのなり。をいてのにめてをねてをって、にしり、をてにしるは…、、にれの。（219頁）

　　金仙氏：釈尊（お釈迦さま）。　　孟軻氏：孟子。

１３．らくるべし。はしてにざるを。… にあり、はをめうの、はをしをするのなり。… は、は、ににして、になるは、をすとえども、れず、かず、たにして、にあり。ちをいてしたるなり。りあるべからず。し**ののにる**らくのみ。（225頁）　　　精麁：詳しく丁寧か、荒く雑か。

１４．をににするは、にのをるるなく、えく、にするのく、をすのなし。もたり。はにをしてにしむ。（228頁）

１５． にらば、よりからん。はにす。よりにるまで、**もをるなし**。とはそれのとうをさえらず。なる、のににせてるがし。ういかな。にわずや、りにるは、まらざるなりと。し**にるは、りにずるし**。**しもなきは、にす。は**［おごり高ぶり勝手気ままに悪いことをする］**らずとうなし**。

　えばにのらんに、、［こごえ飢え貧乏しやつれる］のたりとえども、のんずるへは、えうしてりにするわず。のちをするは、もみい、もたりし、いり、［たぬきとむじな（どちらも人をばかす）］れる。び、ず。のとなんぬ。

　もり。**の、のになどをえたるく**、としてするときは、のなく、ののうして、、［『荘子』に出る語。天地万物が差別を超えて一つであること］、のく、のくなるのの 、もをむわず、もいるず。をじててむし。つべし、のなりと。

　のちにわれ、にかれてえず**の**をす。… はえにのよりしく、はにのよりわし。ものえにし。をのとう。しれ**の、の**なくんば、のにおしひたされて、のをえて、のにるをんや。（230頁）

１６．。のをして、しもくなく、の**を**し、えにをって、の、のにみながら、にたるに、なりとり、なりといいて、き、いきをとなどのなるく、のえもなくかしらして、しかりし、しかりし［天上から地獄まで］のをりて、…をらえて、なりとれい、なりときしむ。… のにり、いたきしばかりののにりて、をぜず、をかず、をのみて、**の**をもるなきのなれのなり。（234頁）

１７．うことなかれ、にしてなくとしてきしと。らくるべし、ののには、なくなきことを。（241頁）　　　衲子：修行僧

１８．にく、をばんは、の、の、の、のにりても、をえず、をえず、ねてのとして、にんでかず。（243頁）

１９．し、をてれりとせば、げてをり、ににせん。にするのみにず、にもせん。がぞ、しれはをりをしてし、はをにしをれてし、はをしをいてし、はをちをめてし、はをてをてせば、**えれ、りにってれからんか**。らばちりみて、ずわん、「**はめてのなり**」と。（246頁）

２０．にらず、えのなりし、、、、、、… の、、、のをらして、らのをむ。のにく、「**なさざればせず**」と。をの、とう。の、をってく。

　し**くえばとてをい、をるにしず**。の、の、にらずしてをする、もたし。れのは、のなり。**かてせんや**。るにきにゆるののきは、、の。（248頁）

２１．いたしてにし、にをつのりとも、、の、の、のあってか、もすることをんや。にてとしてをれ、をして、をじ、をしてのをね、のをんですとえども、のにれて、すればり、のにのをむ。にしてをり、をみをり、**をしてすれば、のをってず**。いてをめをめて、えずしてく、「**、をげ、、をう**。かじをし、をいて、**、のにってにをし、のをれん**」と。**にりれり**。… をり、のにすべきもなくて、もすればとしてかんとす。（251頁）

　　印を解いて：官（公務員）を辞職すること。

２２．のにして、い、のにってし、きむにたりとえども、みけ、**にく**、のつるをいても、るがし。**にもにものにかつべき。**のあらんに、… **にらず、ひたえにふるえて、とるさえわで、にすがりらみて、もすればらふるえんとす。てはのにらる。**がぞ、くのくなる、だれ、のすなり。い、などがきなりとも、くのくしたらんには、にふるえざらめや。（253頁）…（253頁）

２３．のに、って、ののをす。はの、はの、はの、はの、はの、しれって、にれの。… しれくんば、のにるがけん。しむべし、のてのくなるを。…

　のにく、「**あまりものにむ、ばかさるるもわり**」としいき。るに、はを「にり、にむ［疲れた魚はたまり水に留まり、病んだ鳥は芦の茂みにとじこもる］」、「**しききをって、いにきをらず**」としいき。のは、の、のにるらくのみ。かがをばん。かがをぜん。（254頁）

２４．の、のにみて、もをすることなく、にのす。れ、のならずや。のならずや。… のをれりとし、をなりとしてにするとと、にのなり。（261頁）

　　進退揖譲：立ち居振る舞い、客の応接。　　霄壌の間：天地の差。

２５．にもにものがけわんずる**は、ののにえたるはるべからず**。れはれれてたるにてり。をかとうぞとならば、**、、、、ねてのとして、のにのくにきえ**、… はの、はの、はの、… のの、、なれのなりとし、**の**をんで、ののにして、**のにいて、かれの、かれのと、にするれのの**にてり。（264頁）

　　云為：言葉と行動。　話頭：公案。修行者に与えられた問題。　禅牀：坐禅する場所。

　　進退揖譲：貴賓を応接する際の立ち居振る舞い。射御書数：読み書き、算術等、士たるものが学ぶべきもの。

２６．も、**はもるべからず、るべきはにず**といき。のには**のりめにもにてし、とたおれふすにもにてす**とは、**もするなかれ**とのえにてり。…

**とはのをすことなり**とれるべし。（268頁）

２７．してのはるぞとならば、**、のにて**、えばのにりまれたらんに、、**のをって**、をきってけんずのにて、えずりもなく、をけ、… はげみみれば、のはもくたるにり。（285頁）

２８．… は、をし、すべきになし、す。ちらをして、とってす。としてをる。

　… は、 をる、みれてあるのみ。にてをし、とってす。、にすること、はうくし、にり。（286頁）

２９．れをでにのをもけよかし、…しにてもるべきあって、のをもけして、しわば、のずのにばん。しのにせば、のずのにばん。しのにせば、のずのにばん。

　がぞ、のはのなるに、ににぼし、、をけ、、をせん。らばちの、の、れにかんや。れがのなり。（294頁）

３０．くなるをばして、はのなれば、などするは、めのはじもらぬなるぞなどうは、にりながら、をるこそすれ。（298頁）

３１．のれ、の、ろしや、がらわしや、らるのみならず、をもにきずりす。［「延命十句観音経霊験記」から］

３２．のはのをはげまし、にんでかず、のをざらんりは、のをずまじきぞとしう、のわず。［「藪柑子」から］

○「」（1757年）

１．の、をてせずんば、がをりちれ。… のは、のにるといえども、す。… らざる、にに、になることをう。（87頁）

２． にえたりとえども、… 、はにのにはかにされり。（92頁）

○「」（1757年）

３．はに**をしてににしむ。**… **はにをしてににす。ににするは、**…**まりれ、［］しみむ**。（116頁）　　庸流：普通の凡庸な人々。　五官・六根：眼耳鼻舌身が五根（五官）。意を加えると六根。

４．く、のはをするにをてし、のはをするにをてす。… らくるべし、**をしてににしむ。をうの**なることを。（117頁）　　漆園：荘子のこと。

５．しをめてびのにおかば、ににしてのなく、の なけん。れなり。うなかれ、しばらくをせんと。のわく、**をにおさめて、くのをす**と。（131頁）

６．**をしてびにるをてとす。**をするのみにあらず、にをく。… く、「、の、**をののにおくべし**」と。（133頁）　　元子：道元禅師のこと。「浄」は道元の師匠の如浄禅師。

７．く、「つねにをしてのにしむ。をし、をし、をし、にじ、び、のにおいて、をいてつくることなし。にきことをう」と。にぶべし。（135頁）

８．**をしてのにせしめ、の、の、ばかりものなからしめんことをす。をうなることをるべし。**（136頁）　　　毛竅：毛穴。　　毫髪：髪の毛。ほんのわずか。

９．**す、をして、のをせんことを。**（139頁）

１０．ににるに**いさざるの**をてす。（146頁）